

第87期中間連結会計期間の経営概況及び業績について

当中間連結会計期間における当社グループを取り巻く経済状況は、米国の通商政策を巡る不確実性に加え、中東情勢の緊迫化による地政学リスクの高まりにより、先行きの見通しにくい状況が続きました。国内においては、設備投資が底堅く推移したほか、輸出の一部に持ち直しの動きが見られました。海外においては、北米経済が個人消費及びハイテク関連投資に支えられ堅調に推移した一方、欧州経済は需要回復の勢いを欠き、成長ペースの鈍化が継続しました。

このような経営環境のもと、当社グループでは2025年3月に開示した「KURIYAMA MANAGEMENT PLAN (KMP)2039」に基づき、2027年末までの3力年を中期経営計画「KMP ACTION 1」として、成長基盤を強化する期間と位置付けております。「KMP ACTION 1」の2年目となる今期においても、急激に変化する外部環境に順応しながら、人材育成及びグループ内連携による営業力の強化、物流体制の最適化ならびに地産地消の拡大を目指した製品供給体制の強化を全グループ一丸となり進めております。

この結果、当中間連結会計期間の当社グループの連結売上高は513億10百万円(前年同期比18.5%増)、営業利益は36億4百万円(前年同期比38.9%増)、経常利益は40億43百万円(前年同期比37.7%増)となり、親会社株主に帰属する中間純利益は27億40百万円(前年同期比4.4%増)となりました。



クリヤマホールディングス株式会社
代表取締役CEO 小貫 成彦

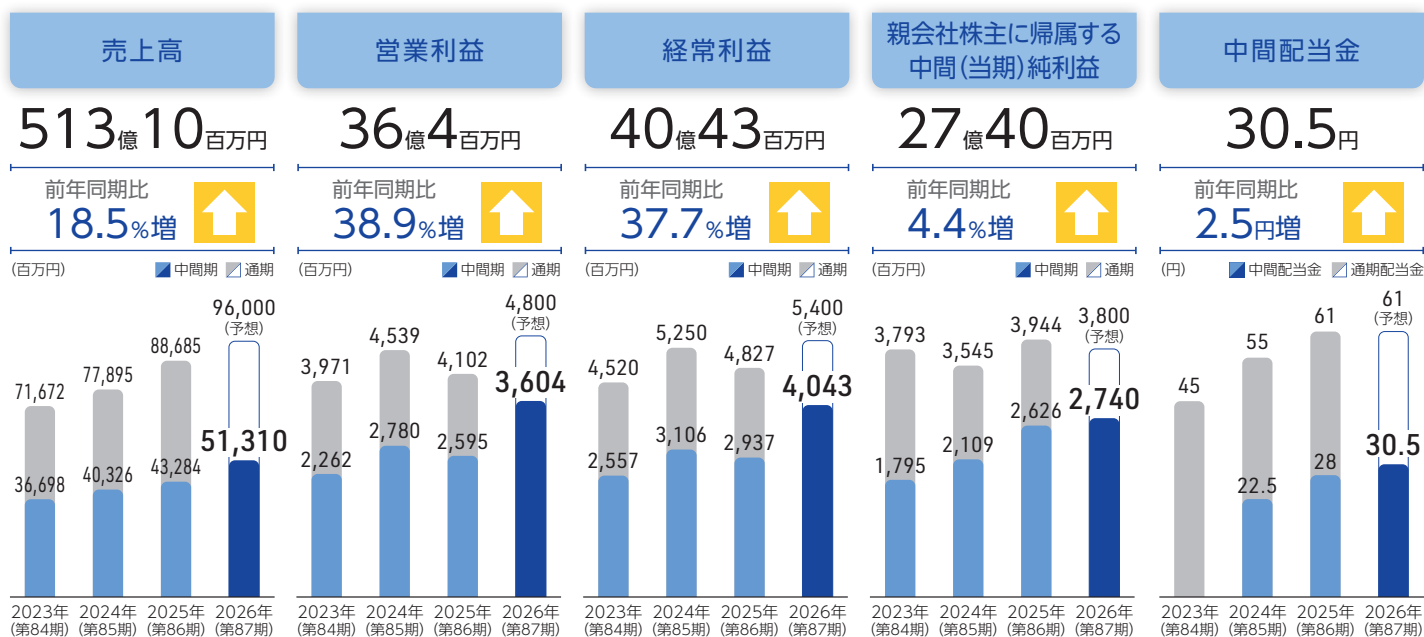
人的資本の強化について

当社は、「100年企業」に向けて人的資本への投資を重要な経営課題と捉えております。中でも「従業員エンゲージメント向上」に資する取り組みとして従業員持株会を通じた譲渡制限付株式を付与する制度を一部の国内従業員に導入しておりますが、2026年8月に、一部の海外子会社の従業員を対象に「株式付与ESOP信託制度」を新たに導入いたしました。

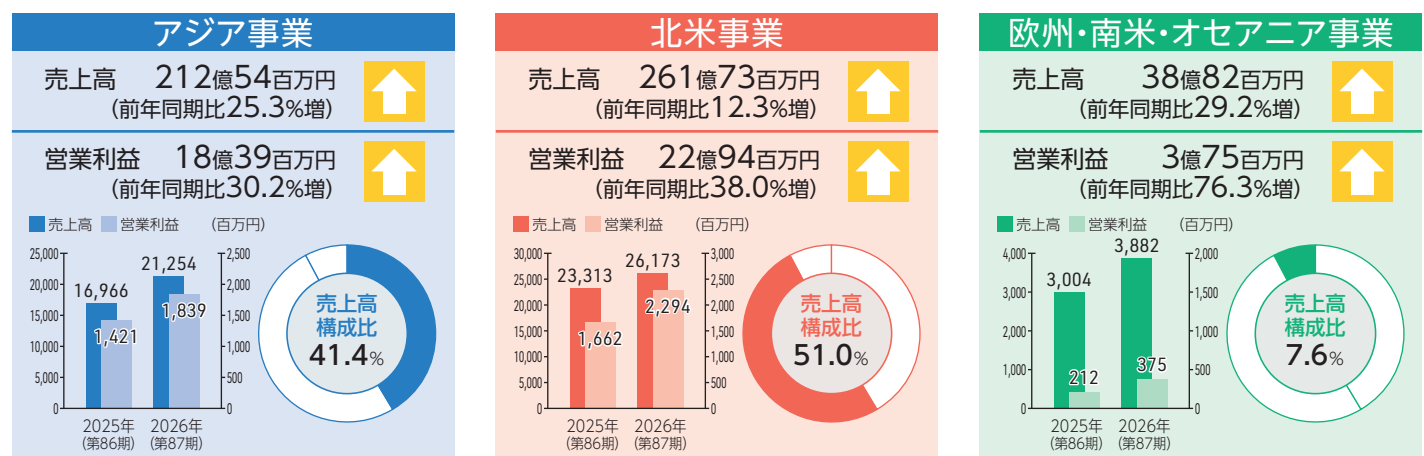
本制度は、海外を含むグループ全体での一体感の醸成を図るとともに、従業員の経営参画意識の向上を目的としております。

当社は引き続き、国内外における従業員のエンゲージメント向上に資する取り組みを強化することで、グローバルベースでの持続的な企業価値向上に努めてまいります。

2026年12月期 中間期 決算ハイライト



2026年12月期 中間期 セグメント別業績



1 「クリヤマR&Dセンター」を東広島市に竣工 -グローバルR&D拠点として本格稼働-



当社は、広島県東広島市に建設を進めていた「クリヤマR&Dセンター」を5月29日(金)に竣工いたしました。

本センターは「グローバルベースで付加価値のある技術・製品・人材を生み出す研究・開発拠点」として、クリヤマグループの情報・技術・人材・知財を横断的に集約・活用する研究開発プラットフォームです。知財の創出や管理、各種試験・検査の集約による研究開発および実用化の加速、さらには次世代への技術継承とエンジニアの育成を担います。

また、竣工を記念して、本センターにてお披露目会を6月24日(水)に開催いたしました。当日はゲストに当社のコーポレートアンバサダーである浅田真央さんをお迎えし、内覧会を開催するなど、多くの方々にご来場いただき、新社屋の門出を盛大に祝いました。

当社は、本センターを中核に研究開発体制を強化し、新製品および高付加価値製品の創出により製品競争力を高め、グローバル市場への迅速な展開を図ってまいります。また、次世代技術者の育成と知的財産の創出・活用を一層推進し、中長期的な企業価値の向上と持続的な成長を目指してまいります。

2 総合展示型ショールーム「Kuriyama Innovation Square」を開設

当社は、6月1日(月)にクリヤマグループの沿革や事業内容を体系的に紹介する総合展示型ショールーム「Kuriyama Innovation Square」を、当社子会社のクリヤマジャパン(株)新大阪支社の1階に開設いたしました。

当社は、多岐にわたる事業領域および海外展開を通じて長年培ってきた技術・知見を、製品展示にとどまらず、企業の全体像や価値を分かりやすく伝える場としてショールームを開設いたしました。

本ショールームでは、世界に広がるグループ拠点をはじめ、歴史、事業別の製品、クリヤマR&Dセンターおよび事業を支えるグループ会社の取り組みを紹介しています。長年にわたり培ってきた経験・実績や、現在および将来に向けた取り組みなどを紹介することで、ご来訪者が当社の事業構成や特徴、グループ各社の連携などを把握できる構成としています。“人が集まり、アイデアが交わる場”をコンセプトに、中央に配したプレゼンルームを核として、ご来訪者との双方向のコミュニケーションを重視することで、信頼獲得と理解の深化を図り、幅広いニーズに応える総合提案や協業による課題解決へと繋げてまいります。



株主様アンケート結果ご報告

第86期 KURIYAMA REPORTの発行後、「コエキク」アンケートを通じて株主の皆様より様々なご回答をお寄せいただきました。

株主の皆様からのご意見(一部)

- 高配当・株主還元を期待しています。
- 厳しい環境ですが、業績向上に向けて頑張ってください。
- 世の中に欠かせない製品が取扱われているので、引き続き応援していきたいです。
- 株主優待の再開、非常に嬉しく思います。長期保有意欲が湧きました。
- 知名度を上げるため、IRフェアへのブース出展や、個人投資家向け会社説明会を増やしてください。

皆様から貴重なご意見を頂戴しましたことに心からお礼申し上げます。当社は今後も、株主の皆様のお声を反映した企業活動並びにIR活動に努めてまいります。

株主メモ

事業年度	毎年1月1日から12月31日まで
定時株主総会	毎年3月
基準日	定時株主総会…12月31日 剰余金の配当…期末 12月31日 中間 6月30日
単元株式数	100株
株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 ☎ 0120-094-777 (通話料無料)
上場金融商品取引所	東京証券取引所 スタンダード市場
公告方法	電子公告の方法により行います。 ただし、事故その他のやむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。 当社の公告掲載URLは次のとおりです。 https://www.kuriyama-holdings.com
証券コード	3355